

被災宅地危険度判定の実務

- ・ 判定の流れと各員の役割
- ・ 判定票の作成
- ・ ステッカーの掲示

鳥取県県土整備部技術企画課

判定の主な流れと各員の役割

2

判定の主な流れ

I 実施本部：判定活動の事前打合せ



II 現地(判定活動)：土地への立入り、被災写真撮影、危険度判定、判定結果を住民へ説明



III 実施本部：判定結果の報告

※イメージ写真はP3～P4

各員の役割

判定班は3～4名(判定士2名以上)で構成。

構成員	役割
判定士A	宅地被害の状況を確認し、判定票を作成。
判定士B	判定票作成補助、住民対応、写真撮影等。
判定士C又は判定補助員	擁壁高さや被害規模の計測等。
判定士D又は判定補助員	計測補助等。

判定の主な流れ

①判定実施本部にて、判定活動の事前打合せ



③居住者への説明



②現地に到着



④判定の開始



判定の流れ

⑤住民に判定結果の報告



⑦判定ステッカーの貼付け



⑥判定ステッカーの記入



⑧判定結果の報告(まとめ)



判定票の種類

判定票は、擁壁用(様式1)、宅地地盤/のり面用(様式2)、広域被害用(様式3)の3種類ある。

【擁壁用(様式1)】

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

Form for retaining wall damage investigation. Includes sections for '調査票' (Survey Form) with fields for date, location, and contact info; '被災状況図' (Damage Situation Diagram) with 10 numbered diagrams for cracks, displacement, and erosion; and '被災写真の有無' (Presence of Damage Photos) section.

Form for retaining wall damage investigation. Includes a table for '被災状況' (Damage Status) with columns for crack type and width; a table for '危険度判定' (Danger Level Determination) with columns for crack type and length; and a final '危険度判定' (Danger Level Determination) section with checkboxes for '大', '中', '小', '無'.

【宅地地盤/のり面用(様式2)】

(様式-2) 宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

Form for residential land/embankment damage investigation. Includes '調査票' (Survey Form) with location and contact info; '被災状況図' (Damage Situation Diagram) with 10 diagrams for cracks, erosion, and landslides; and '被災写真の有無' (Presence of Damage Photos) section.

Form for residential land/embankment damage investigation. Includes a table for 'のり面・自然斜面の基礎的条件' (Basic Conditions of Embankment/Natural Slope); a table for '変状形態と配点表' (Damage Form and Point Allocation Table) with columns for damage type and point values; and a final '危険度判定' (Danger Level Determination) section.

【広域被害用(様式3)】

(様式-3) 擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図

地震名又は降雨災害名		調査番号		
擁壁・のり面の危険度評価区分		被災箇所 D ₁ (m)		
小被害 中被害 大被害		被災範囲 D ₂ (m)=D ₁ +H		
擁壁・のり面条件	擁壁のり面 高さ H(m)	下	L ₁ (m) $\beta < 15^\circ$	
	擁壁のり面 勾配 α (°)	水平	1.2(m) $15^\circ \leq \alpha < 60^\circ$	
	地表面勾配 β (°)	上	L ₂ (m) $\beta \geq 15^\circ$	上端
		下	L ₁ '(m)	下端
		$\alpha < 45^\circ : 0.4H$ $45^\circ \leq \alpha < 60^\circ : 0.9H$ $60^\circ \leq \alpha : 1.3H$ $\alpha < 45^\circ : H$ $45^\circ \leq \alpha < 60^\circ : 1.5H$ $60^\circ \leq \alpha : 2.0H$ $\alpha < 45^\circ : 0.4H$ $45^\circ \leq \alpha < 60^\circ : 0.6H$ $60^\circ \leq \alpha : H$		
被災した擁壁・のり面と宅地・建物等の位置関係図				
特記事項				

ポイント

- 判定票は、擁壁用(様式1)及び宅地地盤/のり面用(様式2)を使用して、作成する。
- 広域被害用(様式3)の使用は、少ない。
→ 中部地震の場合、4905件中3件
- 同一宅地内で擁壁被害と宅地地盤被害が生じている場合は、同一宅地に対して(様式1)と(様式2)の両方を作成すること。この場合、点数が高い方の判定票を優先し、点数の低い判定票は、図面を省略しても構わない。

判定票の作成 擁壁用(様式1)

擁壁用(様式1)の項目と記入方法

様式1の表面

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票 (調査票) (調査票)

調査日時 年 月 日 時 調査番号

地震名又は降雨災害名

被害発生場所 都道府県 市郡 区町村

地区 団地 丁目 番号

所有者・管理者氏名 記入者氏名 TEL:

所有者・管理者の連絡先 居住者への説明 済 未了 居住者不在 老人独居住宅

TEL:

調査日時	年	月	日	時	調査番号
地震名又は降雨災害名					
都道府県					
市郡					
区町村					
地区 団地					
丁目					
番号					
所有者・管理者氏名			記入者氏名		
所有者・管理者の連絡先			居住者への説明		
TEL:			<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了 <input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人独居住宅		

- 調査日時: 調査の日付と時刻を記入する。
- 調査番号: 対象宅地の整理番号を記入する。
- 地震名: 「〇〇県〇〇地方地震」等
- 被害発生場所: 対象宅地の住所を記入する。
- 所有者・管理者氏名: 宅地所有者の氏名を記入する。
- 所有者・管理者の連絡先: 宅地所有者の連絡先がわかれば記入する。
- 記入者氏名: 判定票作成者の氏名と連絡先を記入する。
- 居住者への説明: 説明を行った場合は「済」にチェックする。

(中部地震の例)

(様式-1)

擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査日時	H28年 10月 23日 17時	調査番号	3-1, 3-2, 3-3
地震名又は降雨災害名 鳥取県中部地震			
被害発生場所 鳥取 都道府県 区 市郡 区町村			
地区 団地 丁目 番号			
所有者・管理者氏名		記入者氏名 TEL:	
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明 <input checked="" type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了 <input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人独居住宅	
TEL:			

様式1の裏面

擁壁の種類	<input type="checkbox"/> コンクリート系擁壁 <input checked="" type="checkbox"/> 練石積擁壁 <input type="checkbox"/> 空石積擁壁	<input type="checkbox"/> L型 <input type="checkbox"/> もたれ式 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 場所打ち <input type="checkbox"/> 間地石 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 重力式 <input checked="" type="checkbox"/> コンクリートブロック <input type="checkbox"/> 玉石積 <input type="checkbox"/> 間地石 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 増積み擁壁 <input type="checkbox"/> 二段擁壁 <input type="checkbox"/> 張出し床版付擁壁	増積部分 擁壁部分 全擁壁高 m 増設高 m 上部高 m; 下部高 m 擁壁の設置条件 <input type="checkbox"/> 切土・盛土境 <input type="checkbox"/> 軟弱地盤上 <input checked="" type="checkbox"/> 不明 擁壁の勾配 度又は (1 :)
-------	---	---	--	--	--

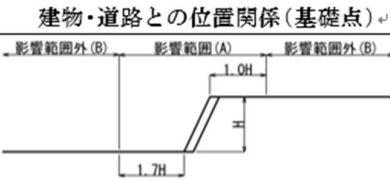
- 擁壁の種類: 該当する形式にチェックする。
⇒ 増積み擁壁、二段擁壁の場合は、各段の高さを記入する。
- 擁壁の設置条件: わからなければ「不明」でOK。
- 擁壁の勾配: わからなければ空欄のままOK。

基礎点	①湧水	乾燥	0	0
		湿潤	0.4	0.2
	②排水施設	にじみ出し、流出	0.8	0.4
		水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0
	③高さ	水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.1
H ≤ 1m		0	0	
1m < H ≤ 3m		0.2	0.1	
	3m < H ≤ 4m	0.4	0.2	
	4m < H ≤ 5m	0.8	0.3	
	5m < H	0.8	0.4	

基礎点計
①+②+③
1.0

擁壁の危険度は「基礎点」+「変状点」で判定を行う。
ここでは「基礎点」を算定する。

- 影響範囲(A)に建物または道路がある場合は左側、それ以外(B)の場合は右側のチェックリストにより基礎点を算定する。
- 以下について、該当する点数に○をつける。
①湧水 ②排水施設 ③擁壁の高さ
- ①~③の合計を右側の空欄に記入する。



様式1の裏面

区分	項目	小					中					大								
		コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5	2.5	3.5	4	5	7	4	5	6	7	8				
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9		
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7	4.5	5	6	7	9	6	7	8	9	10				
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10	
	5 傾斜・倒壊	5	3.5	6	7	8	7	8	8	9	10		8	9	10	10	10			
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9	7	8	9	9	10		8	9	10	10	10			
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10	
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷					7					9									
	9 基礎及び基礎地盤の被害										10									
	10 排水施設の変状				3						5									7
	11 擁壁背面の水道管等破裂										10									

ここでは「変状点」を算定する。

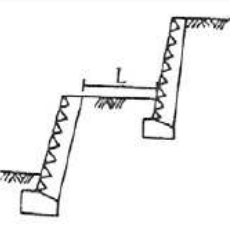


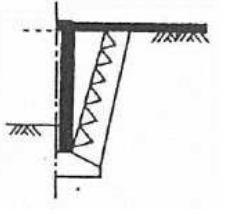


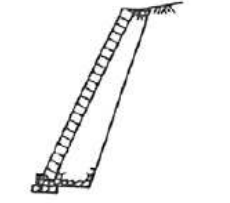


- これまでに選択した各変状形態と擁壁の種類における被害の程度を、下表を参考に「大~小」のうちから選択し、該当する点数に○をつける。
- ○をつけた点数のうち、最も大きな値が「変状点」となる。
⇒ 変状点は○をつけた数字の合計ではないので注意すること。

項目/程度	小	中	大
1 クラック	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)	2mm~20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満)	20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)
2 水平移動(伸縮目地前後のずれ)	5mm未満の隙間変位がある。	5mm~50mm未満の隙間変位がある	50mm以上の隙間変位がある
3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	5mm~50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。	50mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。
4 ハラミ(デンプンクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け積石が1~2個抜け落ちる	宅地地盤にデンプンクラック無し! 凹み等のおそれ無し	宅地地盤にデンプンクラック有り! 凹み等のおそれ有り
5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合: 天端50mm未満の傾斜)	擁壁が前面地盤に対し垂直以上。(コンクリート系擁壁の場合: 天端50mm以上の傾斜)	擁壁が前面・倒壊してその機能を失っているもの。
6 擁壁の折損	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに傾斜している。)	クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)	一見して大であると思われるもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)
7 崩壊	中間部から上方滑っている。	基礎部を侵して滑っている。	機能を果たしていない。
8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。	支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。	支柱の剪断破壊。
9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。		
10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端前面、前面面にクラックが見られる。	左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。	水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。
11 擁壁背面の水道管等破裂	破裂して水が流出している。		

（参考）擁壁の種類

擁壁の種類	模式図	写真例	
①練石積			
②増積み			
③コンクリート系（プレキャストを含む）			



（参考）擁壁の種類

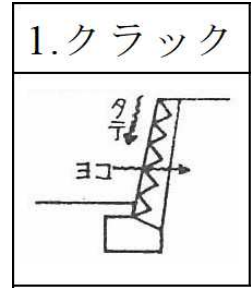
④二段			
⑤張出し床版付			
⑥空石積			

(参考) 擁壁被害の変状形態による「大・中・小」の区分




※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

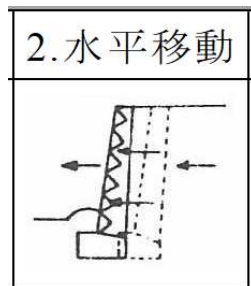
①クラック

小 2mm未満	中 2~20mm未満	大 20mm以上
		



②水平移動(伸縮目地前後のずれ)

小 5mm未満	中 5~50mm未満	大 50mm以上
		

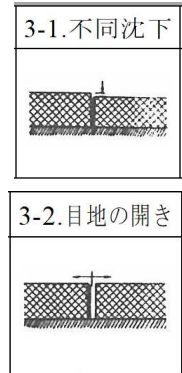


(参考) 擁壁被害の変状形態による「大・中・小」の区分

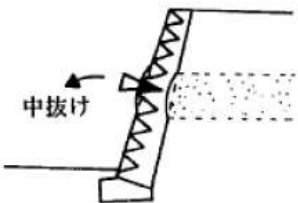
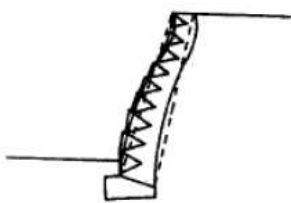
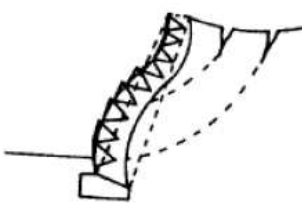
※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

③不同沈下・目地の開き

小 5mm未満	中 5~50mm未満	大 50mm以上
		

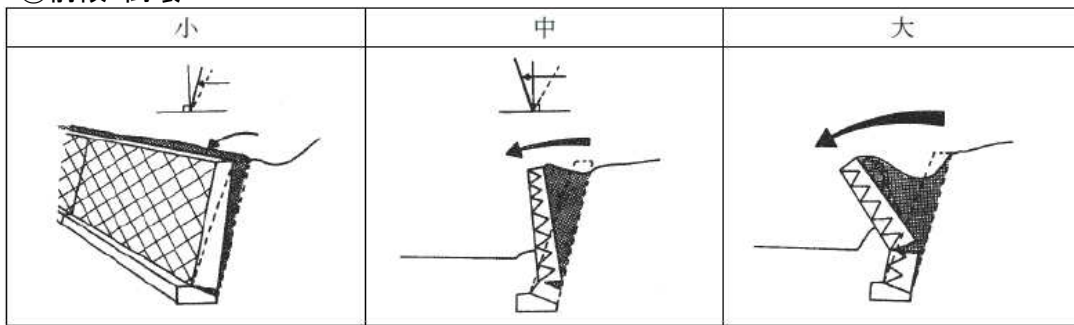


④ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜け)

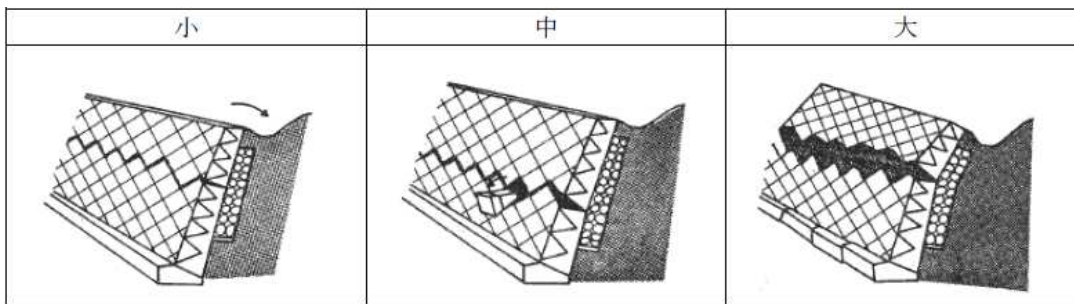
小	中	大
		

（参考）擁壁被害の変状形態による「大・中・小」の区分
 ※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

⑤前傾・倒壊

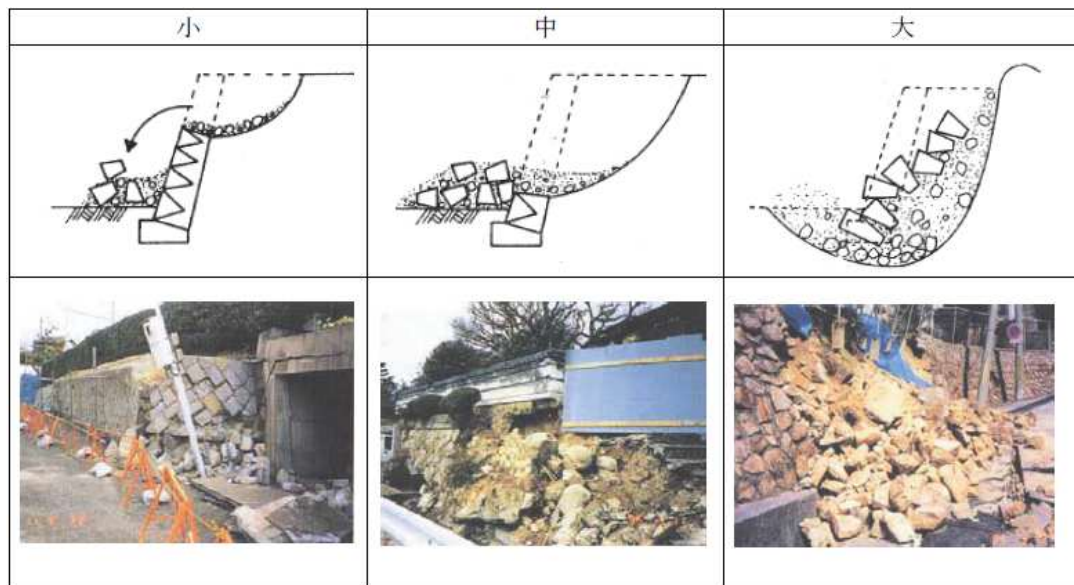


⑥折損



（参考）擁壁被害の変状形態による「大・中・小」の区分
 ※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

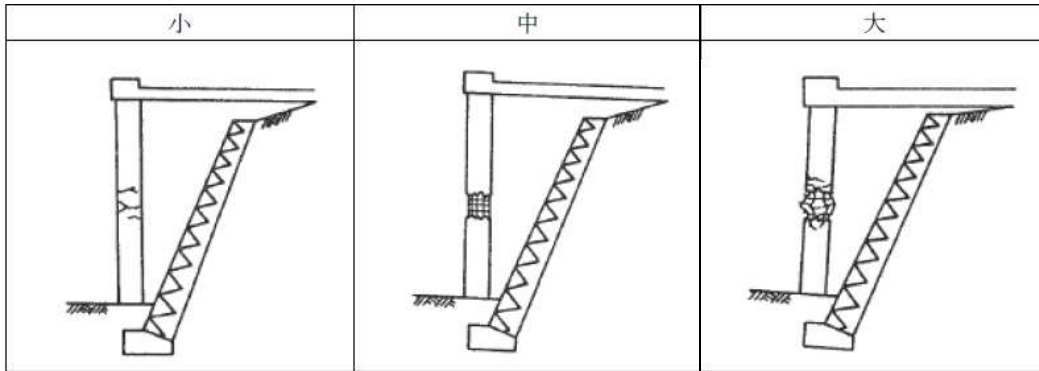
⑦崩壊（大被害）



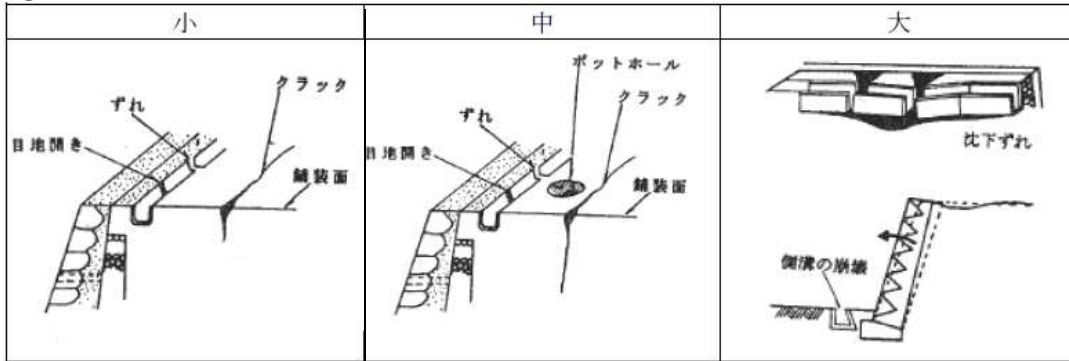
(参考) 擁壁被害の変状形態による「大・中・小」の区分

※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料 (H26.3) 参照

⑧張出し床板付き擁壁の支柱の損傷



⑩排水施設の変状



宅地地盤／のり面・自然斜面用 (様式2) の項目と記入方法

様式2の表面

(様式2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票	調査日時	年月日	調査場所	調査員
調査対象	調査範囲	調査結果	調査内容	調査結果
宅地地盤	のり面・自然斜面	被害状況	危険度判定	応急措置
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起
6.のり面保護工変状	7.排水施設の変状	8.その他	9.備考	10.備考

<被災状況図>										
宅地地盤					のり面・自然斜面					
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハلامي	2-2.盤ぶくれ	3.ガリ・浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
5.のり面保護工変状					6.排水施設の変状					
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。										

応急措置 済 未了
被災無 簡易記録

- 被害の形態を、宅地地盤であれば1～5、のり面・自然斜面であれば1～6のうちから選び、○をする。(複数可)
- 応急措置が行われている場合は「済」にチェックする。
- 下部の空白スペースには、平面図(住宅地図や地形図から切り抜き)や断面図等をスケッチし、寸法・被害の状況を旗上げ等により表示する。

【簡易記録を実施する場合】

- 宅地地盤又はのり面・自然斜面に被害がない場合、被害無・簡易記録にチェックする。
- 被害無しの場合、被災状況図を省略できる。
- ただし、調査結果がわかるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害がないことが確認できる全景写真を撮影すること。

※上段、下段の部分は様式1と同様のため説明を省略

様式2の裏面

変形状態のチェック表(複数可)		小		中		大	
1 クラック(幅)	3cm未満	1	1~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3	5
2 陥没(深さ)	20cm未満	2	20~50cm未満	4	50cm以上	6	8
3 沈下(沈下量)	10cm未満	2	10~25cm未満	4	25cm以上	7	9
4 段差(段差量)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上	8	9
5 隆起(隆起量)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上	8	9

のり面・自然斜面の基礎的条件					
地盤	岩			オーバーハング	
	上 砂	□軟岩 □硬岩 □不明	□砂質土 □礫質土 □粘性土 □不明	排水施設	□無 □有(のり面、小段排水)
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)	最大高	m(平均高 m)		擁壁配置	□のり面の上部 □のり面の中部
のり面勾配	度			□のり面の下部 □全面	
のり長さ	m			家屋の有無	上部 □有 □無 : 下部 □有 □無

この欄は、のり面・自然斜面の場合に記入する。

- 地盤: 該当する土質にチェックする。
- のり面高: 法尻から法肩までの高さを記入する。
⇒ 擁壁を含む複合法面の場合は擁壁高さも記入する。
- のり面勾配: 法面の勾配を記入する。
- のり長さ: 法長を記入する。
- オーバーハング: 有無にチェックする。
- 排水施設: 有無にチェックする。
- 擁壁配置: 擁壁がある場合は該当するものにチェックする。
- 家屋の有無: 法面上部及び下部における家屋の有無にチェックする。

様式2の裏面

変形状態のチェック表(複数可)		小		中		大	
1 クラック(幅)	3cm未満	1	1~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3	5
2 陥没(深さ)	20cm未満	2	20~50cm未満	4	50cm以上	6	8
3 沈下(沈下量)	10cm未満	2	10~25cm未満	4	25cm以上	7	9
4 段差(段差量)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上	8	9
5 隆起(隆起量)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上	8	9

変形形態と配点表				
変形形態のチェック(複数可)	小	中	大	
1 クラック(幅)	3cm未満	1	3~15cm 未満又は複数	3
2 陥没(深さ)	20cm未満	2	20~50cm 未満	4
3 沈下(沈下量)	10cm未満	2	10~25cm 未満	4
4 段差(段差量)	20cm未満	3	20~50cm 未満	5
5 隆起(隆起量)	20cm未満	7	20~50cm 未満	8
6 湧水、噴砂	□無 □有⇒+1点(上の点数に1点加える)			

ここでは、宅地地盤の「被害点」を算定する。

(※のり面・自然斜面の場合は記入しない。)

- 表面で選択した各被害形態における被害の程度を、上表を参考に「大～小」のうちから選択し、該当する点数に○をつける。
- 湧水・噴砂の有無にチェックする。(加点項目)
- ○をつけた点数のうち、最も大きな値が「被害点」となる。
⇒ ○をつけた数字の合計ではないので注意すること。
(上表の場合: 最大値4点が被害点となる)

様式2の裏面

のり面・自然斜面の被害状況		小		中		大		
1 クラック(幅)	3cm未満	1	10cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3
2 ハラミ(隆起杭)	10cm未満	3	10~30cm未満	4	30cm以上	5		
3 ガリリ浸食	クラックなどが誘因となつて雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリリが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8		
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9		
5 のり面保護工の変状(植生には除く)	例えば、のり枠の間詰り陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9		
6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、矢掛がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7		
7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。							
8 湧水、落石・転石	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有+1点(上の点数に1点加える)							

変形状態のチェック(複数可)	小	中	大			
1 クラック(幅)	3cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3
2 ハラミ(隆起杭)	10cm未満	3	10~30cm未満	4	30cm以上	5
3 ガリリ浸食	クラックなどが誘因となつて雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリリが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
5 のり面保護工の変状(植生には除く)	例えば、のり枠の間詰り陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、矢掛がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					
8 湧水、落石・転石	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有+1点(上の点数に1点加える)					

ここでは、のり面・自然斜面の「被害点」を算定する。
 (※宅地地盤の場合は記入しない。)

- 表面で選択した各被害形態における被害の程度を、上表を参考に「大～小」のうちから選択し、該当する点数に○をつける。
- 湧水・噴砂の有無にチェックする。(加点項目)
- ○をつけた点数のうち、最も大きな値が「被害点」となる。
 ⇒○をつけた数字の合計ではないので注意すること。
 (上表の場合:最大値7点+加算1点=8点が被害点となる)

様式2の裏面

のり面・自然斜面の被害状況		小		中		大		
1 クラック(幅)	3cm未満	1	10cm未満又は単数	1	3~15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3
2 ハラミ(隆起杭)	10cm未満	3	10~30cm未満	4	30cm以上	5		
3 ガリリ浸食	クラックなどが誘因となつて雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリリが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8		
4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9		
5 のり面保護工の変状(植生には除く)	例えば、のり枠の間詰り陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9		
6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、矢掛がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7		
7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。							
8 湧水、落石・転石	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有+1点(上の点数に1点加える)							

被害の判定値	危険度判定	所見記入者の意図
※基礎点と変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	8.0 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)
危険度判定	<input checked="" type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 無	(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)
所見記入者の意図	緊急度 <input type="checkbox"/> 大 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小	
※無被害の場合は記載無し	拡大の見込 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 判断不可	(備考:)

- 点数欄に被害点を記入する
 ⇒宅地地盤とのり面・自然斜面の両方を算定している場合、点数の大きい方を採用する。
- 右側の「被害程度の点数と危険度判定」欄を参考に、危険度判定「大～小」にチェックする。
- 右側の「被害程度の点数と危険度判定」欄に○、「危険度判定」欄の「大～小」にチェックする。

【実施本部が簡易記録を許可する場合】

- 無被害(0点)の場合、被害点の記入を省略できる。
- 「被害程度の点数と危険度判定」欄の「無被害」に○、「危険度判定」欄の「無」にチェックする。

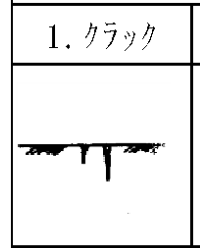
※「所見」は様式1と同様のため説明を省略

（参考）宅地地盤被害の変状形態による「大・中・小」の区分


※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

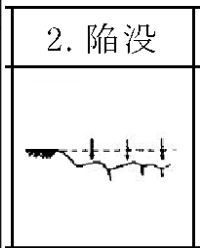
①クラック

小 3cm未満	中 3~15cm未満	大 15cm以上又は全面
		



②陥没

小 20cm未満	中 20~50cm未満	大 50cm以上
		

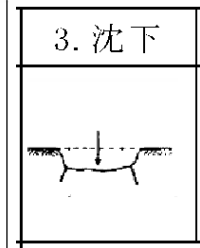


（参考）宅地地盤被害の変状形態による「大・中・小」の区分

※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

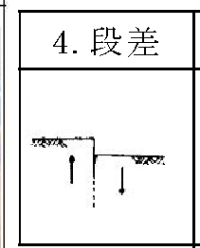
③沈下

小 10cm未満	中 10~25cm未満	大 25cm以上
		



④段差

小 20cm未満	中 20~50cm未満	大 50cm以上
		



（参考）宅地地盤被害の変状形態による「大・中・小」の区分

※被災宅地の調査・危険度判定マニュアル 参考資料（H26.3） 参照

⑤隆起

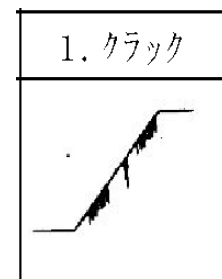
小 20cm未満	中 20～50cm未満	大 50cm以上	5. 隆起 
			

⑥湧水・噴砂（液状化）⇒ 1点の加点

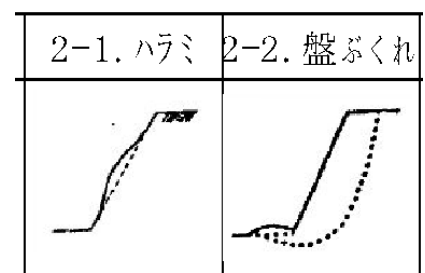


（参考）のり面・自然斜面被害の変状形態

①クラック（小：3cm未満 中：3～15cm未満 大：15cm以上又は全面）



②ハラミ・盤ぶくれ（小：10cm未満 中：10～30cm未満 大：30cm以上）



(参考)のり面・自然斜面被害の変状形態

③ガリー浸食(大被害)



3. ガリー浸食	

④滑落・崩壊(大被害)



4-1. 滑落	4-2. 崩壊

(参考)のり面・自然斜面被害の変状形態

⑤のり面保護工の変状



5. のり面保護工変状
<p>枠内土砂流出 (枠浮上り)</p>

⑥排水施設の変状



6. 排水施設の変状

被災宅地危険度判定結果

危険宅地 UNSAFE

◆ この宅地に入るとは危険です
◆ 立ち入る場合や復旧にあたっては専門家に相談して下さい
◆ この判定は二次災害の軽減・防止を目的としています

◆ この判定は宅地に係る判定です・建築物の判定ではありません
◆ この判定は「罹災証明」に係る調査ではありません

注記:

①

調査番号 ②

判定日時 ③ 年 月 日 午前・午後 時現在

(災害対策本部) 電話 () ④

宅地危険度判定実施本部

掲示状況の例 ※上段は建物判定



ステッカーの記入方法

- ① 「どこが」「どのように」危険なのか記入する。
(記入例)
「東側擁壁が倒壊しており、背後地盤が緩んでいます。」
「西側擁壁が前傾しており、今後倒壊のおそれがあります。」
 - ② 判定票に記入した番号と同じ番号を記入する。
 - ③ 判定日時を記入する。
 - ④ 判定実施本部の連絡先を記入する。
- ※無被害の場合は、「簡易記録」として記載を省略してもよい。

ステッカーの掲示

- 住民の方に判定結果を報告し、貼り付ける。
- 道路から見えやすい位置(塀や建物の壁等)に貼り付ける。
- 建物判定のステッカーがある場合は、その下側に貼る。
- 貼り付けを拒否された場合は、住民に手渡す。

ステッカーの種類

無被害・小被害



中被害



大被害



ステッカーの判断基準

● 擁壁被害(様式1)

点数	判定区分	判定
0点	無	危険性はないと考えられる宅地擁壁である。 調査済宅地
1~4.5点未満	小	小さなクラック等の障害について補修し、雨水の浸透を防止すれば、当面の危険性はないと考えられる宅地擁壁である。 調査済宅地
4.5~8.5点未満	中	変状程度の著しい宅地擁壁であるが、経過観察で対応し、変状が進行性のものとなった場合は継続的に点検を行う。また、必要がある場合は変状等の内容及び規模により、必要に応じて、勧告・改善命令の発令を検討し、防災工事の必要性について検討を行う必要がある。 要注意宅地
8.5点~	大	変状等の程度が特に顕著で、危険な宅地擁壁である。早急に所有者に対しての勧告・改善命令の発令を検討する必要がある、防災工事を行うと共に、周辺に被害を及ぼさないよう指導する。 危険宅地

● 宅地地盤/のり面・自然斜面被害(様式2)

点数	判定区分	判定
0点	無	防災上の問題はないと考えられる。 調査済宅地
1~3点	小	変状は見られるが当面は防災上の問題はない。 調査済宅地
4~7点	中	変状が著しく、当該住宅に立ち入る場合は、時間、人数を制限するなど十分注意する。また、変状が進行していれば避難も必要。 要注意宅地
8~10点	大	変状等が特に顕著で危険である。避難立入禁止措置が必要。 危険宅地